

Olympic  
Movement

<平成30年度 ハローオリンピズム事業>

# オリンピック教室

実施報告書

山梨県 忍野村立忍野中学校



公益財団法人日本オリンピック委員会





平成21年4月の学習指導要領の改訂以来、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されています。その中で、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容には、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」とオリンピックの意義が明示されています。そこで、JOCでは、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められており、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことのできない感動が生まれることを期待しております。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

また、「スポーツ基本法」の前文の一部には、「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習することで、この基本法に記された精神や態度が日常生活の中で具現化され、生涯にわたってスポーツに親しむことができるようになることを願っています。



- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピアン自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピアンだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）  
※派遣オリンピアンはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成30年4月～平成31年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 60校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業



※学校の通常の授業時間をベースに実施  
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります



## 1時限目

### 運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、  
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

#### 挨拶（5分）

#### 準備運動（10分）

#### 主運動（30分）

#### まとめ（5分）



自己紹介  
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動  
（作戦タイム等を設け、  
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

## 2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、  
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に  
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると  
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後活かせるような学習内容

### 座学の時間

#### 挨拶・自己紹介（10分）

#### オリンピックの価値を伝える（10分）

#### グループワーク（20分）

#### まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用  
した自己紹介



オリンピック自身の経験に  
基づく「オリンピックの価値」等  
を伝える



グループ（個人）ワークで  
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

# 実 施 内 容

■期 日 : 平成30年7月12日 (木)

■ク ラ ス : 2年1組 (24名)、2年2組 (24名)、2年3組 (24名)

■オリンピアン : 鶴岡 剣太郎 先生 (スキー・スノーボード)



■授業のながれ : 運動の時間 ( 1時限、3時限、5時限)

## 1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・自己紹介した後、今日は2時間の授業を通して、「オリンピックを探りながら、自分とクラスの良い所」、「今より向上するためには、何が必要なのか」という2つの事を見つけよう、と授業の目的を確認。
- ・3つのオリンピックバリュー (エクセレンス、フレンドシップ、リスペクト) を紹介し、特に運動の授業では、「一生懸命、全力で取り組む」「皆で相談し協力する」「話をよく聞きルールを守る」という3つを意識して取り組むことを約束した。
- ・ストレッチをした後、ライン移動ゲーム (1組、2組)、じゃんけん勝ち抜き (3組) を実施。

## 3. 主運動



- ・2班ずつ2チームに分かれて (90秒×全3回) を実施。引っ掛かったらゼロから数え直すこととし、連続して一番多く跳べた数を競う。各回実施前に作戦タイムを設け、目標回数と各チームの作戦を発表した。同様に各回終了後、結果と作戦を発表し、「跳ぶのが得意な人が先に跳ぶようにした」「やりながら縄を短くしていった」等の意見が挙げられた。
- ・人間知恵の輪を実施。(3組) クラス全員で内向きに円になって手を繋ぎ、20秒以内に繋いだ手を離さずに全員が外向きになれば成功となる。

## 4. まとめ



- ・授業の冒頭約束した3つの事は、しっかり出来ていたと伝え、授業の目的である「自分自身やクラスの良い点を見つけること」を改めて確認し、次の座学の時間は、この運動の時間を振り返り、自分自身あるいはクラスの良かった点を考え、思い出しながら臨んでほしいと予告し、授業終了。



■ 授業のながれ： 座学の時間（2時限、4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・オリンピックバリューとオリンピックがどうつながっているのか、自分自身がさらに向上するために何が必要かを考えていきたいと授業の目的を確認。
- ・平昌大会の開会式やクーベルタン、オリンピックシンボル等について触れ、オリンピックシンボルは世界がつながっていることを表現していると説明。人と人との関係がより良くなった先にあるのが世界平和であり、クーベルタンが目指した世界であると説明し、鶴岡先生が経験した3つのオリンピックバリューについて伝える。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



- 発問：運動の時間を振り返り皆の行動で良かったところを書き出し、それがどのオリンピックバリューに当てはまるか考えてみる。  
 発表：作戦タイムで前回の反省を活かして改善できるような意見が出せた、失敗が成功に変わった(エクセレンス)、アドバイスや前向きな言葉を掛けて合って心が一つになった、ミスをしたチームメイトを責めなかった(フレンドシップ)、他の班を見て学べた、一人ひとりに気を配ることができた(リスペクト)

4. まとめ



- ・オリンピックバリューはオリンピックだけでなく、皆の日常生活にも深く関わっている。グループワークを通して感じたことや考えたことは、クーベルタンの理念と重なる。東京1964大会の開会式に映し出されるクーベルタンの言葉を紹介しながら、苦手なことをそのままにするのではなく少しでも挑戦することの大切さを伝える。
- ・また、来年中学校3年生の体育理論の授業で再びオリンピックについて学ぶことになるが、その時に今日の学んだことをしっかり思い出して取り組んでほしい、と伝え、授業終了。



■ 集合写真

2年1組



2年2組





■ 集合写真

2年3組



■ 記念品贈呈

2年1組



2年2組



2年3組



■ 修了書贈呈

